



区民の皆様へ

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

協議会だより

2015

第30号

平成27年5月1日発行

■発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会／会長：高見澤忠明

■編集 総務広報部会 広報委員

生涯学習青少年育成部会(青少年委員会)

第27回 早朝マラソン大会

～元気に走りました～



3月15日(日)朝は快晴に恵まれましたが肌寒い陽気の中、西部中学校の陸上部の応援を得て50名以上の小・中学生のランナーが参加して、第27回の早朝マラソン大会が裾花川右岸堤防道路の約3.3kmで開催されました。

全員で準備体操をして体をほぐし、8時に折り返し点の長安橋を目指してスタートし、全員元気よくゴールに戻って来ました。

そして、山王小学校の校庭で表彰式などが行われ、入賞者には青木副会長から、賞状と賞品が授与され、入賞者は誇らしげに受け取っておりました。



第五地区からのお知らせ

国道19号線歩道整備事業について

～安全で安心して歩行できる道路をめざして～

国道19号線は中御所交差点から西へ松本・塩尻を經由して名古屋まで通じておりますが、長野市街地は大型トラックなど交通量が多く、朝夕の通勤通学の時間帯は歩行者・自転車を利用する方には歩道が狭く安全面で不安を強いられております。

このたび、歩行者の安全確保の面から、中御所交差点からJR安茂里駅入口の西河原交差点までの間約1.6kmを歩道整備と自転車レーンを整備する事業を展開しようと検討を始まりました。

この事業は関連ある第五地区(中御所交差点～裾花橋東側)と安茂里地区(裾花橋西側～西河原交差点)で各住自協が中心となり、両者で「国道19号線歩道設置推進準備委員会」を立ち上げ、まず、長野市道路課や国土交通省関東整備局長野国道事務所から、この事業を実施するにあたり、レクチャーやアドバイスを受けました。この事業を実現するには、地元地権者を含め地区全体の気運を高め、沿線住民がこの事業をやって貰いたいという風潮が盛り上がるのが重要です。「歩道整備委員会」を立ち上げ、商店・事業所・沿線住民一人ひとりに事業について説明し、理解し納得していただくことが必要となります。

国道の標準的的道路幅は、車道3.5m×2、自転車レーン1.5m×2、歩道2.5m×2で合計15mの道路幅です。第五地区管内の現状は、歩道幅は0.75m～1.8mで自転車レーンは設置されておりません。降雪時には歩道に雪が掃き寄せられ、一部箇所では通行される皆さんは、歩行に苦勞されておられます。

車両の通行量が多い国道19号線を、住民の皆さんが安全で安心して通行できる道路に整備するために、これから取り組んでまいります。進捗状況は都度ご報告させていただきます。どうかご理解の上ご協力の程お願いします。

車両の通行量が多い国道19号線を、住民の皆さんが安全で安心して通行できる道路に整備するために、これから取り組んでまいります。進捗状況は都度ご報告させていただきます。どうかご理解の上ご協力の程お願いします。



男女が共に輝く地域づくり ～人口300人の小さな村「やねだん」に学ぶ～



都市内分権への取り組みが進む中、男女共同参画を合言葉に、地域に住むそれぞれの人々がお互いに尊重しあい、輝けるような地域づくりに向けて、地方のある小さな集落が再生を果たした地域づくりを学ぶために、1月30日（金）に長野市地域女性ネットワーク主催で、勤労者女性会館しなのきに住自協関係者ほか大勢の住民が集まり講演会が開催されました。

講師には全国的に注目されている鹿児島県の大隅半島、^{かのや}鹿屋市の南部に位置する[柳谷集落（通称：やねだん）]の自治公民館長の豊重哲郎氏が、人口300人で電車もバスも通らない小さな村を、集落民が安心して暮らし続けるために必要となる土台づくりを、行政任せにすることなく、住民一人ひとりの出番を引き出し、行政に頼らない地域再生を19年にわたって取り組んでいる状況を講演されました。

講演の一部を紹介すると、ふるさと創生塾で全国に580人の塾生を持ってインターネットでネットワークをはかっている。地域づくりには地産地消といわれるが、外貨を稼ぐまでいかないとボリュームも楽しみもスピード化しない。15年間で6,600万円の自主財源を集落で稼いでいる。地域づくりを本気でして貰うために何をするかを考えた結果、出資制度、会費制度、独禁性を止めて開示すれば、人は自分の事だと感じ取る。還元した一例は、1,500万円を環境整備に、300万円使って空き家改装を行って、ここに芸術家が7名来ている。全戸に250万円を投下し無線設備を設置して、情報を毎朝流している。これを開示することはまぎれもない集落のネットです。

地域づくりはウーマンパワーを大人から子どもまで全開させることだそうです。そして「地域でできることは地域でやりましょう」、「住民でできることは地域でやりましょう（住民自治）」、「住民自治は人です。人がいるから動く、人がいるから感動がある、人は宝です」地域づくりは数字が表にでない無理です。地域づくりは数字で証明できる。1円の大切さを自覚することが重要です。それから集落を誰が運営するのか。これにはまず「土台」、「ルール」、「機関車」の3つが必要。見えないところで基礎を支えているのは誰か。基礎をしっかりして土台を組織化して築く。あとは運転手が変わっても、ルールさえ牽いておけば機関車は必ず動いていく。地域をどうやって企画していくかは、現場主義発想で企業会計を基本にしたムラづくりをすれば皆が参画するムラになる。基本は「ひとりでするな、百人で行え」がポイントだそうです。などノウハウを話されました。

各町からのお知らせ

北石堂町
より

北石堂町公会堂改築完成

北石堂町公会堂は、昭和9年7月に建てられ80年もの長い年月地域のコミュニティーの場として貢献してきましたが、永年の念願でありました建替えが、このたび実現しました。

昨年6月12日に地鎮祭が行われ、工事が始まり平屋建ての公会堂が11月28日に完成し、12月5日に町内住民の皆さまなど関係者が出席し、竣工式が執り行われました。

妻科神社 齋藤宮司による修祓・降神の儀・献饌・祝詞奏上などに続き、参列者による玉串奉奠・御神酒拝戴など一連の儀式が厳かに執り行われました。

施主の内山区長は「公会堂の建替えは念願でしたが、皆さまのご尽力で完成することができました。これからおおいに活用ください」と、来賓の長野市教育委員会 生涯学習課 村井係長は「長野市では平成24年4月に長野市生涯学習推進計画を作成し、地域づくり・人づくりの面では、地域の拠り所である公会堂に期待される役割は一層大きくなっています。新しく生まれ変わった公会堂を地域の拠点として、この地域の特色を生かした素晴らしいまちづくりを進めていただきたい」と挨拶されました。

立派に完成した公会堂で、住民の皆さまが集いコミュニティーの場など有効に活用して、北石堂町が更に発展することが期待されます。



各町からののお知らせ



各町
より

どんど焼き

小正月恒例のどんど焼きが、第五地区の各地区で行われました。中御所は地域が広いので、九反・堀組・一丁目の3カ

所で、南石堂町・北石堂町・岡田町・末広町は4町合同で行いました。中御所九反では好天に恵まれた1月10日（土）に裾花川長安橋下流の河川敷で、風間県議をお迎えして関係者のあいさつ、九反大々神楽保存会の皆さんによる神楽舞奉納の後、立派に組み立てられたやぐら2基に点火され、書初めなどが勢いよく天高く燃え上がりました。燃えた後のおき火でそれぞれ工夫を凝らした餅焼き道具で無病息災を念じ、焼いて持ち帰っておりました。



11日（日）には中御所柳原神社と2丁目空地の2カ所でそれぞれ行われました。

また、12日（月）には、前日からの雪も午前中には止み雪景色の中で、当番町の南石堂町を中心にどんど焼きが行われました。

昨年秋に清美をしてきれいになった相生橋下流の河川敷で、寺澤市議にお越しいただき、各関係者のあいさつ後、2基のやぐらに点火されました。火は勢いよく燃え上がり、子どもにはお菓子が配られ、大人達はお神酒を飲みながら燃え尽きるまで歓談しておりました。

今年1年平穏で飛躍の年になりますように。

南石堂町
より

野良猫対策説明&講習会

～人と猫が共生できる社会をめざして～

南石堂町での野良猫の繁殖防止取り組み活動について、3月1日発行の協議会だより第29号でお知らせしましたが、環境美化推進会では、住民の皆さんにご理解、ご協力いただくために、1月22日（木）の午前と夜間の2回にわたり、南石堂町公民館で長野市保健所 食品生活衛生課 動物衛生係の関口獣医師と平野獣医師のお2人にお越しいただき、地域猫対策について勉強会が開催されました。



猫は文献上の記述では、飛鳥時代に仏教の伝来とともに大陸から渡来したとあり、弥生時代の遺跡から、埋蔵された猫の骨が見つかるそうです。江戸時代には猫の飼育が広がりました。これは農業や養蚕業でネズミから穀類や蚕を守るため、猫が重要な働きを担っていたそうです。そして、明治時代にはペストが発生し明治政府と北里柴三郎博士が、ネズミ駆除の目的で一家に1匹猫の飼育を推奨し、約30年間でペストの発生が止まり、猫はネズミ対策を担い飼育されてきた役割は終わったそうです。犬の場合は、人への感染症予防から、狂犬病予防法で飼い主の登録、狂犬病予防注射の接種、徘徊している犬の捕獲を義務付けられておりますが、猫については、飼い主の登録制度や飼い方の規制がなく、行政では健全な猫を捕獲、保護の法的な規制がなく出来ません。

現在では、ネズミが減り、猫の使役動物としての認識が弱まり、飼い猫と野良猫という認識がされるようになりました。外で生活している猫で困ることは、猫の糞尿、猫爪とぎ、発情期の鳴き声、猫の死骸、置き餌、家屋内（屋根裏、軒下）への侵入・出産などで、飼い主のいない猫が増え続けて、近隣住民からは何とかしてほしいとの声も多く寄せられております。

猫は繁殖力の強い生き物で年間3回程度出産し、1匹のメス猫は72匹の子猫を産むそうです。

地域猫（野良猫）の対策として、野良猫を地域（住民）で管理し、地域で情報を共有し、捕獲し不妊手術・去勢手術をして捕獲場所に戻し、給餌、糞尿等の管理がポイントとなります。飼い猫は、不妊又は去勢手術を実施し、屋内に猫



の居やすいスペースを設け、屋内飼養して外には出さないことが大切です。

須田会長は「現在行っております野良猫避妊事業は、野良猫を絶滅させるのが目的ではありません。野良猫が減少し、迷惑行為が減少する。そのうえで、ボランティアの方々の協力を得て、地域猫として管理し、猫と人とが共生できる『ご近所』にしたいのです。今後も息長くこの事業を進めたいと考えておりますので、住民の皆さまのご理解とご協力をお願いします」と語られました。

各町からのお知らせ

中御所
より

学業成就祈願祭

受験シーズンが真近に迫ってきた1月25日（日）に、中御所堀組の学問の神様で菅原道真公を祭神とする御所天満宮で合格祈願祭が執り行われ、大勢の受験生が親御さんと合格祈願に訪れました。

斎藤宮司らによるお浄めの言葉で始まり、お祓い、玉串奉奠など一連の神事が執り行われ、受験生や保護者らがお祓いを受けました。斎藤宮司から「神様は目には見えない存在だが、親の恩と同じで後になって存在意義に気がついてくるものです。よく『お陰様で』と言いますが、これには上の言葉が抜けております。神様のおかげ、親のおかげ、家族のおかげで今があります。再確認してあとは受験日まで体調を崩さないように気を使うことが一番ではないかと思えます」と激励のお言葉がありました。また、篠原区長からは「試験は時間が決まっておりますので、自分ができると思う問題から取り組んで下さい。問題をよく見てよく読んで答えを書いて下さい。その後時間があれば残った問題に取り組んで下さい。今日は天満宮の学問の神様と勝利の神様の八幡宮の両方の神様に祈願しましたので必ず合格します」との力強いお言葉がありました。そして、合格を祈願したお札と記念品が授与されました。



柳澤貫太さん（中御所在住・高3）は「合格するために、一生懸命勉強しており今日の合格祈願に来ました。3月の合格御礼祭には必ず来たいと思います」と語りました。

末広町
より

長野駅前善光寺口広場が完成

～おもてなしの心を表現する広場～

3月14日（土）新幹線金沢延伸が開業したこの日、長野駅前善光寺口広場が完成し、関係者により式典が開かれました。

駅前のシンボル如是姫像が3月3日（火）に一時的保管されていた善光寺から戻って安置されていましたが、14日（土）には善光寺僧侶により「お魂入れ」

の法要が営まれ、善光寺方面に向けて観光客を見守り続けます。また、時計塔の除幕も行われ、近代的なデザインの5代目駅舎とともに、長野駅善光寺口の整備が完成し、善光寺を結ぶ表参道の信都・長野市の玄関口として、観光客をお迎えする「おもてなし」の準備が整いました。

この日、朝6時11分に新型車両のE7系の金沢行「はくたか」が大勢の乗客を乗せて出発しました。3月7日（土）には、MIDORI長野が全面開業し、食料品、飲食、専門店など112店が出そろい、各種イベントが開かれ駅周辺は大勢の人が集まっておりました。

駅前広場や車道を挟んで位置する、商業ビル「ウエストプラザ長野」と新駅を結ぶ歩行者専用デッキも開通し、県都の新たな玄関口は大変な賑わいを見せております。



事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせ下さい。

〒380-0833
長野市大字鶴賀権堂町2201番地20
権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)
メール dai5@feel.ocn.ne.jp